

# かけはし

〒669-2321

兵庫県篠山市黒岡5番地

TEL 079-552-1181 (代表)

FAX 079-552-5343 (代表)

## 《理念》

兵庫医科大学ささやま医療センターは、安全で質の高い医療を通じて、地域社会へ貢献するとともに、よき医療人を育成します。

## 《基本方針》

- 患者の立場に立ったチーム医療の実践
- 人間性豊かで、優れた医療人の育成
- 科学的な根拠に基づく医療の実践
- 健康増進活動による地域の保健・福祉の推進
- 地域の医療機関との円滑な連携

## 《患者さんの権利》

- 良質で安全な医療を平等に受けることができます。
- 病気や治療について、わかりやすく十分な説明を受けることができます。
- 診療内容をご自身で選択することができます。
- 診療内容について、他の医師の意見を聞くことができます。
- ご自身の診療情報を入力することができます。
- いかなる状況においても人間としての尊厳が守られます。
- プライバシーは常に保護・尊重されます。
- 患者さんの権利に関する「リスボン宣言」を尊重し、患者さん本位の医療を実現することができます。

## ◆乳がん検診のすすめ◆



石川 英明

乳がんは女性が罹患するがんの中で最も多く、年間に約6万人が乳がんと診断され約1万3千人が死亡しています。一生のうちに女性の16人に1人が乳がんになり、45歳から49歳の年齢層に最も多く見つかって30歳から64歳の女性のがん死亡原因の第1位になっています。

欧米では乳がんによる死亡率が1990年以降減少しましたが、その理由は治療法の進歩とともにマンモグラフィにより触診では判らない早期の乳がんの発見が可能になったためです。早期に見つければ手術により高い治癒率が期待できますが、進行するとリンパ節、肝臓、肺、骨などに転移して生存率が低下します。乳がんによる死亡を回避するためにマンモグラフィ検診が重要ですが、欧米に比べて日本では検診率が低く、その結果、早期のがんの発見が遅れ、乳がん死亡率が増加する要因になっています。

当院では本年2月に新しい乳房X線撮影装置と高精細の読影モニターを導入しました。当院では篠山市乳がん検診を年間600件以上実施していますが、篠山市の乳がん検診率は約18%と非常に低く、当地域には相当数のマンモグラフィ未受診者がいるものと思われます。あなたの乳房を失わないために、乳房に心配のある方もない方も勇気を出して検診を受けてください。



兵庫医科大学 地域総合医療学講座 准教授  
兵庫医科大学ささやま医療センター外科診療科部長  
石川 英明

## ◆ストーマ外来について◆

3月からストーマ外来を開設しました。ケアが必要な患者さんは医師が選択し、兵庫医科大学病院の認定看護師の指導のもとに対応しています。

(内容)

- ・ストーマ周囲の皮膚ケアの方法に関する指導
- ・ストーマ装具や関連製品などの情報提供
- ・その他日常生活で困っていること(装具から排泄物が漏れることがある、今の装具が合わないなど)

通常の外来診察室とは別に専用の部屋を設けて、ストーマを保有されている方が、より快適な日常生活を送ることができるよう援助させていただきます。

**ストーマ外来開設のお知らせ**

★ 26年3月からストーマ外来を開設します ★

対象者：オストメイト（ストーマをお持ちの方）、そのご家族

※消化管のオストメイトのみを対象とさせていただきます。

日時：第1火曜日、第3火曜日（月に2回）

【午後】13：30～15：30

※30分（ストーマ1つ）の完全予約制となります。

場所：①外科外来診療室 → ②2階家族相談室

※毎日、外科医師の診察後、ストーマ外来受診となります。

受診方法：初めての方は、主治医の紹介状が必要となります。

担当医師：石川 英明（外科）

担当看護師：日本看護協会 認定・併設ケア認定看護師  
兵庫医科大学病院勤務 岡山カナ子

お問い合わせ先：  
兵庫医科大学 ささやま医療センター（代表）079-552-1181

外来担当：江崎 早日 9：00～17：00

★ストーマ外来受診時は、使用中の装具やその他交換に必要なケアの物品をご持参ください。

兵庫医科大学 地域総合医療センター 外科



## ◆糖尿病最前線◆



兵庫医科大学病院 病院長  
内科学 糖尿病・内分泌・代謝科  
主任教授 難波 光義

今のわが国には1,000万人近い糖尿病患者さんがおられます。欧米化した食生活と車社会の弊害で、ご当地篠山でも徐々に患者さんが増えているように思われます。兵庫医科大学病院（本院）からささやま医療センターに糖尿病の専門医が派遣され8年が経過しますが、現在も糖尿病専門外来と糖尿病カルチャースクールを継続しています。

食事・運動療法だけで血糖値の改善が見られなければ、糖尿病薬の力を借りなければなりません。一昔前の糖尿病薬では体重増加や低血糖が治療上避けられなかったのですが、最近開発されたお薬では、これらが軽減されるとともに、糖尿病自体の進行を予防する効果も期待されています。糖尿病専門外来では、2名の日本糖尿病学会専門医と糖尿病療養指導士資格を有する看護師や栄養士が、生活指導に加え、患者さんの体質をよく診ながら新しいお薬も適宜使用しています。

また、平成25年9月より糖尿病患者さんの合併症管理の一環として、足の病変観察を目的に、フットケア外来を開設しています。この外来では、医師の指示を受けた専任の看護師が、患者さんの足の状態や足の清潔・爪切り等の足のセルフケア方法等について指導を行っています。



糖尿病専門外来やフットケア外来に関しては、窓口（Aブロック受付：1階総合待合前）でどうぞお気軽にご相談ください。

### ■糖尿病専門外来口 ※平成26年4月は難波が診察、勝野医師は5月から診察にあたります。

曜日	受付（診察）時間	担当医	役職・資格等
毎週木曜日	8:30~11:30	木村 祐子	・日本糖尿病学会専門医 ・日本内科学会認定医
※第1,3,5金曜日	14:00~17:00	勝野 朋幸	・兵庫医科大学 内科学糖尿病・内分泌・代謝科医局長 ・先進糖尿病治療学講座特任准教授

### ■フットケア外来口

曜日	受付（診察）時間	担当看護師	役職・資格等
毎週木曜日及び第1,3,5金曜日	8:30~17:00	江崎 悦子	糖尿病療養指導士

## ◆平成26年3月31日付定年退職医師のご紹介◆



平成26年3月31日で定年を迎え、ささやま医療センターを退任しました。

平成19年(2007)に丹波地域の救急医療を担当するようになり、平成21年(2009)からは篠山病院での終日勤務となりました。この5年間は都会では感じることのできない自然の中での仕事となりました。一次、二次救急を担当するようになって、地域に住む方々の生活と密着した医療に触れることができました。地域の中での医療とは何かを教えてくれた5年間でした。このことは今後の活動にも役立てたいと思っています。

長い間ありがとうございました。

兵庫医科大学 地域救急医療学講座 教授  
救急科部長 吉永 和正



長年勤めましたささやま医療センターを定年退職することになりました。私は国立篠山病院の頃より、かれこれ30年近く篠山市での整形外科診療に携わってきました。

平成17年より、立石 博臣先生の後を引き継ぎ、フルタイムで篠山に勤務するようになりました。人工関節を中心とした高度な整形外科手術をめざし、外来では骨粗鬆症を中心とした地域に即した高齢者の運動器疾患の治療を目指しました。志なかばで定年になるのは残念ですが、若い先生方の意欲に期待して後を託します。長年ご協力いただいた医療スタッフの皆様、地域の皆様、長い間本当にありがとうございました。適当な時期に装いを新たにされた骨粗鬆症専門外来をささやま医療センターに開設する予定です。乞うご期待。

兵庫医科大学 地域総合医療学講座 准教授  
副院長・整形外科診療科部長 楊 鴻生